

平成24年度学力向上に向けた取組

函館市立港中学校

学級数

10

視点1：アプローチの視点に基づいた、「組織的」で「つながり」（学びの連続性・学校内外の連携）をもった取組

重点教育目標

よく見聞きし、考え・表現し、自他をつなぐ生徒の育成

A各教科・領域等における系統性や、他の教科・領域等との関連に配慮する

B長期的な見通しをもって、学習内容を確実に定着させる

C校内研究の進め方を見直す

D授業公開や外部への公開・発信を生かす

取組の概要

1 基礎的な学力や家庭学習の習慣を定着させる取組

本校の学力状況については、ここ数年の全国学力・学習状況調査の結果によると、全国の平均正答率とほぼ同程度で、全道平均をやや上回っている状況にある。

しかし、定期テストや各種テストの結果を分析すると、理解度が高い生徒と低い生徒と分布が二極化している傾向にある。また、学習状況アンケートの結果によると、理解力はあるものの学ぶ喜びが感じられなかったり、学び方がわからないという生徒も多くいることがわかった。

こうした生徒の状況を踏まえ、基礎学力の定着を目指した全校的な取組や、家庭と連携した学習習慣の定着を図る取組の一層充実に努めることが重要と捉えている。

2 取組の位置付け

- CTGG（クラス対抗学力グランプリ）…学習委員会の活動として
- 1学年による家庭学習ノートの実践…学年団の取組として

3 取組の方法

(1) CTGG

- ・全学年が取り組める1年生の学習内容とする。
（※年2回実施。7月は数学、11月は国語。）
- ・練習期間を1週間設け、朝読書の時間（8：20～8：30）で取り組む。
- ・テスト範囲は、練習問題から出題する。（50問）
- ・テスト実施後、採点は学習委員会で実施。
- ・学級平均による上位学級の表彰と、個人上位30人を発表する。

(2) 家庭学習ノート

- ・9教科の予習・復習・課題など家庭で学習した内容をノートに記入する。
- ・1日1ページ以上取り組み、内容は自分で決める。
- ・朝のうちに担任に提出し、忘れた場合は、放課後残って必ず取り組む。

取組の成果と課題等

○ 取組の成果

- ・ C T G G (クラス対抗学力グランプリ)… 7月(数学), 12月(漢字)実施

(成果) → 朝の時間を利用し, 学年問わず取り組める基本的な内容としているため, すべての生徒が意欲的に取り組むことができた。また, 得点上位者には1~3年生まで同数程度いて, 生徒は「やればできる」という達成感を得て, 学習意欲の一層の高まりを感じることができた。

- ・ 家庭学習ノートの取り組み… 1学年による実践

(成果) → 自分で課題を設定し, 予習, 復習, テストの見直しをするなど家庭学習の習慣が定着しつつある生徒が増えてきた。1学期, 2学期に実施した「学習状況アンケート」によると1週間の家庭学習の時間は, 「毎日」「4・5日くらい」が年々増加し今回の調査では75%をしめ, 「家庭学習に取り組む時間」は, 「2時間以上」「1・2時間」を合わせると, 全校で85%をしめ, 1学年の取組から2, 3学年時へも継続し, 家庭学習の習慣は全校的にも定着しつつある。

○ 教育課程検証の方法

- ・ 平成24年度全国学力・学習状況調査の「傾向と分析」や「学校における学習活動の改善方策」, 「家庭学習の参考例」をまとめ, 2学期の二者懇談・三者懇談の際, 保護者へ配布し公表した。 (教頭, 教務)

- ・ 生徒には年2回(1学期, 2学期)「学習状況アンケート」, 保護者には12月に「よりよい学校づくり」のためのアンケートを実施している。その結果をグラフ化し, 傾向と改善策などを保護者に発信した。 (評価・準備委員会, 教頭)

- ・ 11月に実施した学校評価の結果を受け, 分析を行い, 職員会議, 分掌部会, 学年部会, 準備委員会, 特別委員会で平成25年度に向けての改善策を検討した。さらに, その結果や改善策について, 学校関係者評価を行い, 次年度教育課程の編成に生じた。

(評価・準備委員会)